
最後の気持ち

榎山功助

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最後の気持ち

【Nコード】

N7834I

【作者名】

樫山功助

【あらすじ】

100人中99人が忘れても、1人が覚えていれば、それは真実であり、嘘ではなくなる。

僕にとって、その1人は僕自身なのかもしれない。

嫌なことがあっても、なかったことのように忘れられたらどんなに楽だろう。

どんなに僕が忘れようとも、その場にいた人は、その光景を忘れな
い。

たとえ、100人中99人が忘れてしまっても、たった一人が覚えてい
れば、それは真実であり、嘘ではないのだ。

クラスメイトが死んだ。

先生から発せられた「お亡くなりになりました」という言葉は、あ
まりにも薄情で、氷のように冷たく感じられた。

僕にとつて、その死んだクラスメイトというのは本当にただのクラ
スメイトで、余程のことがない限り話をしない人だった。

先生の言葉を聴いて、誰一人としてその場で泣く人はいなかった。
いなくなつて清々したという気持ちを持っている人はいないだろう
が、いなくなつて悲しいという人もいない。

その子は、そんな子だった。

先生は淡々と言葉を続ける。

その子は、クラスでのいじめが苦になつて自殺したということだつ
た。

虐めは確かにあった。

僕がすべてを把握しているわけではないけど、みんなの目の前で裸
にされたのは知っている。

靴が隠されるなんてのは序の口だし、女子から「触らないで」と怒
鳴られるのもよく聞いた。

残された遺書には、いじめの内容が事細かくつづられていたらしい。

それと同時に名前も。

その名前を、先生は言わなかったが、クラス全員にはわかっていた。

その子のお葬式に僕たちは参列した。

でも、いじめに関わった子は参列しなかった。家族の意向らしい。

その子の位牌の前で手を合わせる。

どういう気持ちで死んだのだろう。

苦しかったのだろうか。

寂しかったのだろうか。

僕にはわからない。

どうして死んでしまったのだろう。

解らない疑問ばかりを、その子に投げかける。

けれど、答えは返ってこない。

それから何年経っても、あの子の気持ちが解ることはなかった。

けれど、自殺というニュースを見るたびに、僕の記憶の中から、その子のこと 생각이出されてしまう。

忘れようとしても、忘れられない過去。

その子の最後の気持ちは、その子の存在を忘れさせないことだったのだろうか。

（後書き）

テスト投稿です。誤字脱字があったら知らせてください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7834i/>

最後の気持ち

2011年1月20日00時50分発行